

漢籍と日本の古典文学の影響関係 ～『高僧伝』から読む『源氏物語』の夢～

【講師】 **呉松梅**（山東大学外国語学院・副教授）

※講演は日本語で行われます。

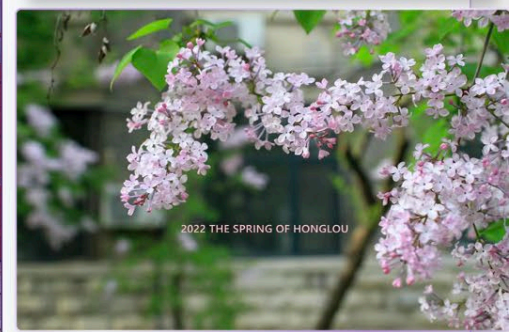
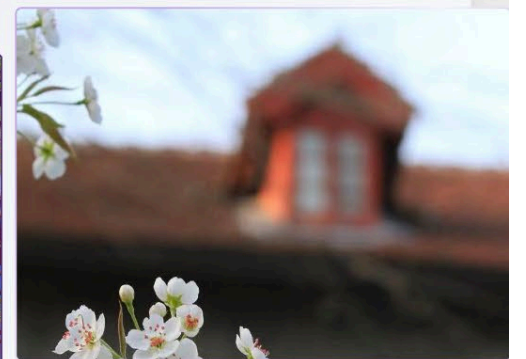
【日時】 令和8年（2026）7月17日（金）14時40分～16時

【場所】 山口大学吉田キャンパス・人文学部棟小講義室（中庭側通路1階）

※事前連絡は不要です。ご自由にご来場ください。

【概要】

『源氏物語』には数々の「夢」が語られている。なかでも、「明石」と「若菜上」の巻に記された明石入道の二つの夢は物語の展開に重要な役割を担っている。留意すべきは、いずれも漢籍の影響下にあると想定される点である。漢籍に記された夢はどのような様相を呈し、『源氏物語』の創作に受容され、明石入道の夢の解読に如何なる示唆を与えたのかについて、『史記』、『漢書』、『三国志』などの歴史書や『高僧伝』を使って分析する。



【主催】 山口大学大学院東アジア研究科

【問い合わせ先】 森野正弘（人文学部） morino@yamaguchi-u.ac.jp